

社会資本総合整備計画 事後評価書

平成 31 年 3 月 26 日

計画の名称	恵那峡の豊かな自然と文化が織り成すにぎわい空間づくり		
計画の期間	平成26年度 ～ 平成30年度 (5年間)	交付対象	恵那市
計画の目標			

- 恵那峡の渓谷美と豊かな自然や情緒を誰もが身近に感じられる空間形成を図る
- 自然や文化を活用した交流を促進し、持続的な恵那峡のにぎわい創出を図る
- 恵那峡や恵那峡周辺の観光資源を誰もが快適・安全にアクセスできる環境の創出を図る

計画の成果目標（定量的指標）

- ・既存のさざなみ公園や藤棚広場の整備・改良、交流の場となる新たな広場などを整備するほか、恵那峡周辺地区への案内誘導施設を充実させることで、恵那峡周辺地区の来訪者数を509,101人（H23）から560,000人（H30）への増加を目指す。
- ・持続的な恵那峡のにぎわい創出を図るため、取組実施の際に必要なスペースを確保するほか、日常的な交流を視野に入れた交流の場を整備することで、誘客の促進に繋がるイベント回数を1件/年（H24）から7件/年（H30）への増加を目指す。
- ・さざなみ公園内の周遊ルートを生創出するほか、大井ダムや傘岩等の恵那峡周辺の施設への安全で快適な移動空間を確保することで、恵那峡周辺を快適に移動しやすい空間を13%（H25）から20%（H30）へ増加を図る。

定量的指標の定義及び算定式

	定量的指標の現況値及び目標値			備考
	当初現況値 (H25当初)	中間目標値 (H28末)	最終目標値 (H30末)	
恵那峡の観光入込客数（人）=恵那峡に訪れた年間の観光客数	509,101人	－	560,000人	
イベント開催回数（件/年）=恵那峡周辺における年間のイベント回数	1件/年	－	7件/年	
周辺施設回遊割合=恵那峡に訪れる観光客数のうち、恵那峡に点在する観光資源を回遊する観光客数の割合	13%	－	20%	

全体事業費	合計 (A+B+C)	837.5百万円	A	832.5百万円 <small>(内提案事業分100.4百万円)</small>	B	0百万円	C	5百万円	効果促進事業費の割合 (A(提案分)+C)/(A+B+C)	12.1%
-------	---------------	----------	---	---	---	------	---	------	----------------------------------	-------

1. 交付対象事業

A1 基幹事業											全体事業費 (百万円)	備考				
番号	事業 種別	地域 種別	交付 対象	直接 間接	事業者	要素となる事業名 (事業箇所)	事業内容 (延長・面積等)	市町村名	事業実施期間（年度）							
									H26	H27			H28	H29	H30	
1-A-1	都市再生 整備計画	一般	恵那市	直接	恵那市	恵那峡周辺地区都市再生整備計画事業	広場、散策路、案内板等 804ha	恵那市							832.5	別添1
合計											832.5					

B 関連社会資本整備事業											全体事業費 (百万円)	備考				
番号	事業 種別	地域 種別	交付 対象	直接 間接	事業者	要素となる事業名	事業内容 (延長・面積等)	市町村名	事業実施期間（年度）							
									H26	H27			H28	H29	H30	
1-B-1																
1-B-2																
合計											0					

番号	一体的に実施することにより期待される効果										備考
1-B-1											
1-B-2											

C 効果促進事業											全体事業費 (百万円)	備考				
番号	事業 種別	地域 種別	交付 対象	直接 間接	事業者	要素となる事業名	事業内容	市町村名	事業実施期間（年度）							
									H26	H27			H28	H29	H30	
1-C-1	交通	一般	恵那市	直接	恵那市	案内サイン整備事業	誘導案内サイン整備	恵那市							5	
1-C-2																
合計											5					

番号	一体的に実施することにより期待される効果										備考
1-C-1	1-A-1恵那峡周辺地区都市再生整備計画事業と一体的に整備することにより、恵那峡周辺地区への主要なアクセス道路となる国道19号からの案内誘導施設を整備することで、恵那峡周辺までの利便性向上を図る。										
1-C-2											

2. 事業効果の発現状況、目標値の達成状況					
I 定量的指標に関連する 交付対象事業の効果の発現状況		<ul style="list-style-type: none"> ・四季折々の自然を楽しむことができる植樹環境を施したほか、恵那峡内の各所から大井ダム湖を望むことができるように自然環境を整備した。また、恵那峡内を安全・快適に散策できるように、森林散策路及び湖畔散策路を整備した。こうした整備により周辺施設回遊割合の向上が図られた。 ・周辺事業者と連携を行い、春と秋にマルシェを開催し、食によるにぎわいの創出を行っている。また、ビジターセンター・多目的広場を整備し、イベントスペースと休息施設の確保を行ったことで、イベント開催回数の向上が図られた。 			
II 定量的指標の達成状況	指標 1 恵那峡の観光入 込客数	最終目標値	560,000人	目標値と実績値に 差が出た要因	恵那峡の観光客数は50万人前後で横ばいが続いている。評価時においては恵那峡において各事業が実施中であるため、十分な効果が得られず目標が達成されなかった。
		最終実績値	504,273人		
	指標 2 イベント開催回 数	最終目標値	7件/年	目標値と実績値に 差が出た要因	平成27年度以降は年間7件以上のイベントが継続的に開催されていたが、評価年度は恵那峡の改修工事があり開催できないイベントもあったため目標が達成されなかったものの、改修工事完了後はこれまでと同様にイベントが開催される予定である。
		最終実績値	5件/年		
	指標 3 周辺施設回遊割 合	最終目標値	20.0%	目標値と実績値に 差が出た要因	-
		最終実績値	20.7%		
III 定量的指標以外の交付対象事業の効果の発現状況 (必要に応じて記述)		-			
3. 特記事項（今後の方針等）					
<ul style="list-style-type: none"> ・恵那峡地区全体のにぎわいの持続を図るため、今後は活用（ソフト）の面から恵那峡地区全体のにぎわいを持続するための施策を検討する。また、地元事業者・観光協会・行政が一体となってにぎわいを持続する取組を推進する。 ・広域からのアクセス道路となる国道19号から恵那峡までの案内が不足しているため、案内を充実することでアクセスの向上を図る。 					

